

トピックス：日韓超電導ワークショップ開催

(2010 Korea-Japan Superconductivity Workshop)

財団法人国際超電導産業技術研究センター
超電導工学研究所 電力機器研究開発部
部長 藤原 昇

平成22年4月15日(木)に、韓国の昌原(Changwon)市において第1回日韓超電導ワークショップが開催された。昌原市は、釜山空港から西へ車で30分ほどに位置する人口約50万人の都市であり、KERI(韓国電気技術研究所)があることでも有名である。

本ワークショップは、近年、高温超電導線材を電力ケーブルや電動機などの電気機器へ応用することに関して非常に積極的な成果発表や研究計画がなされている韓国と日本の研究者が一堂に会し、超電導電気機器の早期の商業化を目指し、ハイレベルかつフランクな情報交換を行った。



オーラル会場

本ワークショップには、日本、韓国の両国から約50名の参加者があり、オーラル、ポスターを合わせ24件の発表があり熱心な討論が行われた。

日本側からは、ISTEC、東京電力、ケーブルメーカ、大学の研究者など14名が参加し、「イットリウム系超電導電力機器技術開発」の最新の研究成果や、東京電力の旭変電所で超電導ケーブル実証試験が予定されている「YOKOHAMAプロジェクト」の進捗状況などについて報告があった。さらに、産業用超電導線材・機器技術研究組合(ISTERA)より、1km長YBCO線材開発とモータの開発に関する新プロジェクト計画について報告があった。

一方、韓国側からは、超電導電力ケーブル、限流器、SMES(超電導電力貯蔵装置)、モータ等のプロジェクト、国をあげて取り組んでいるスマートグリッドの計画、さらには超電導線材の開発状況等について報告があった。具体的には、実際の変電所間(距離3km)を超電導電力ケーブルで接続する計画、済州島でのスマートグリッド導入試験の一環として超電導ケーブルの実証試験を行うプロジェクト計画、1MWモータ開発実績と5MWモータの開発計画、EDBCプロセスによる線材研究成果(100A/4mm幅で0.9km/dayの作製能力)などであり、超電導機器の商用化の早期実現に対する韓国関係者の並々ならぬ熱意が感じられる内容であった。

財団法人 国際超電導産業技術研究センター 〒135-0062 東京都江東区東雲 1-10-13 Tel: 03-3536-7283 Fax: 03-3536-7318

また、ワークショップ翌日の4月16日（金）にはオプションツアーとして、KERI、CASTの見学訪問を行った。超電導に関する研究に加え、高電圧試験装置、インダクションモータの研究などの見学を行った。

次回ワークショップは、CCA2010が今年10月28日-30日に福岡市で開催されることから、その前日の10月27日に福岡市で開催されることが合意された。

以上

参考:

1. KERI : Korea Electrotechnology Research Institute
<http://www.keri.re.kr/english/>
2. CAST : Center for Applied Superconductivity Technology
http://www.cast.re.kr/english/e_index.html
3. CCA : International Workshop on Coated Conductors for Applications
<http://www.icmab.es/cca2009/presentation.html>



会場のホテル玄関にて

[超電導 Web21 トップページ](#)